目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ………………………………………… 1

Ⅱ　研究主題について ………………………………………… 2

Ⅲ　研究の仮説 ………………………………………… 2

Ⅳ　研究の内容 ………………………………………… 3

1　栃木県佐野市立葛生南小学校の実践

⑴　実践校の紹介
⑵　いじめ０の１年間を通した取組
⑶　25年度のいじめ０の授業
⑷　25年度の研究成果
⑸　25年度の課題
⑹　26年度のいじめ０の授業
⑺　26年度の研究成果
⑻　26年度の課題
⑼　27年度のいじめ０の授業
⑽　27年度の研究成果
⑾　27年度の課題

2　栃木県塩谷郡高根沢町阿久津中学区の実践

⑴　実践校の紹介
⑵　高根沢町の小中一貫教育
⑶　高根沢町生き方部会の活動
⑷　阿久津小学校生き方部会の活動
⑸　各校の実践から

Ⅴ　成果と課題 ………………………………………… 40

豊かな心や社会性を育む道徳教育の充実
～ いじめ未然防止の取組を通して ～

栃教協教研推進委員会　教員部
佐野市立葛生南小学校　亀　田　久美子
宇都宮市立平石中央小学校　吉　田　優　子

Ⅰ　研究主題設定の理由

近年、児童・生徒を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、その急速な変化が子供の自尊感情や規範意識の低下を伴い、いじめ問題が増え、大きな社会問題となっている。その内容は学校内でのトラブルはもちろん、家庭のネット環境におけるトラブルなど多岐にわたっている。今まさに、全ての教職員や保護者、地域と連携し、道徳教育を充実させていくことが重要視されている。

我が国の道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた。平成26年２月には、文部科学大臣が、道徳教育の充実を図る観点から、教育課程における道徳教育の位置付けや道徳教育の目標、内容、指導方法、評価について検討するよう、中央教育審議会に対して諮問を行い、同年３月から道徳教育専門部会を設置し、同年10月には「道徳に係る教育課程の改善等について」の答申が出された。この答申を踏まえ、平成27年３月27日に学校教育法施行規則を改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」（以下「道徳科」）とするとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正の告示を公示した。特に小学校では２年後の平成30年度から新学習指導要領のもと、道徳科が実施されることとなっている。そして昨年度からは、移行措置として新学習指導要領で道徳科を実践することが可能となっている。

栃教協教研推進委員会教員部では、長年継続して、「心の教育」及び「道徳教育」の研究を行ってきた。平成26年度は、「生きる力」から更に「生き抜く力」の育成を目指し、道徳の時間を中心に言語活動の工夫について研究を深めた。また、平成27年度は、全国の小中学校に配布されている「私たちの道徳」の活用実践を通して、学校と家庭とが連携を図ることにより、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、行動できる力を身に付けることを目指した取組について研究した。

本年度は、豊かな心や社会性を育むために、いじめ未然防止の取組に焦点を当てて研究を深めていく。教師が、いじめ未然防止の効果的な指導方法について研究を深めることで、児童生徒に対して適切な指導を行うことができるようにしていきたいと考えた。

Ⅱ　研究主題について

⑴　豊かな心や社会性を育むとは

「豊かな心や社会性を育む」とは、より良く生きるための基盤となる道徳性を養い、生きる力を育て、人格の完成へと導くということであると考える。そして、人格の完成へ導くということは、児童生徒が自由な意志と責任をもって行動し、自己実現を図るとともに社会の中で他者と関わりながら生きていけるようにすること、即ち、一人一人の社会的自立を目指して一歩一歩育てていくことである。

人生で出会うであろう多様で複雑な具体的事象に対して考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが豊かな心や社会性を育むことにつながっていくのである。

⑵「いじめ未然防止」の取組について

道徳の教科化が求められた要因の一つは、滋賀県大津市のいじめ自殺事件を受け、平成25年の教育再生実行会議が「いじめ問題に対応するため」に「道徳教育の充実」を提言したことにある。

このように、いじめや自殺、不登校は大きな社会問題となっている。これらのことは、子供の心の問題であり、豊かな心や社会性を育む心の教育の充実が強く望まれている。「いじめ未然防止」で今必要なことは、子供たちそれぞれがいじめに具体的に対応できる力を育てることである。

そこで、こうした社会の動向や課題を受けて本部会では、「豊かな心や社会性を育む」ために、より積極的に他者を理解しようとし、他者を思いやる姿勢、他者と共に生きようとする態度等を育てるため、いじめ未然防止の取組に焦点を当てて研究を行うこととする。

Ⅲ　研究の仮説

⑴「いじめ未然防止」の取組を通して、豊かな人間性や人権感覚を育みつつ、健康な心身を築き維持していくための方法を身に付けさせることにより、自他の人権を守るための基礎となる生命の尊厳を大切にし、健全な心身を育成していこうとする意欲をもたせることができるであろう。

⑵　道徳教育を核とした、心の教育や豊かな人間性を育成する活動を実践することにより、思いやりの心が育ち、他者の痛みや感情を共感的に受容するための感受性や想像力とそれらに支えられた判断力を磨くことができるであろう。

⑶　教師が道徳の時間に「いじめ未然防止」の効果的な指導方法について研究を深めることにより、いじめ問題に対して児童生徒の発達の段階を考慮した適切な指導を行うことができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

1　栃木県佐野市立葛生南小学校の実践

⑴　実践校の紹介

栃木県佐野市立葛生南小学校

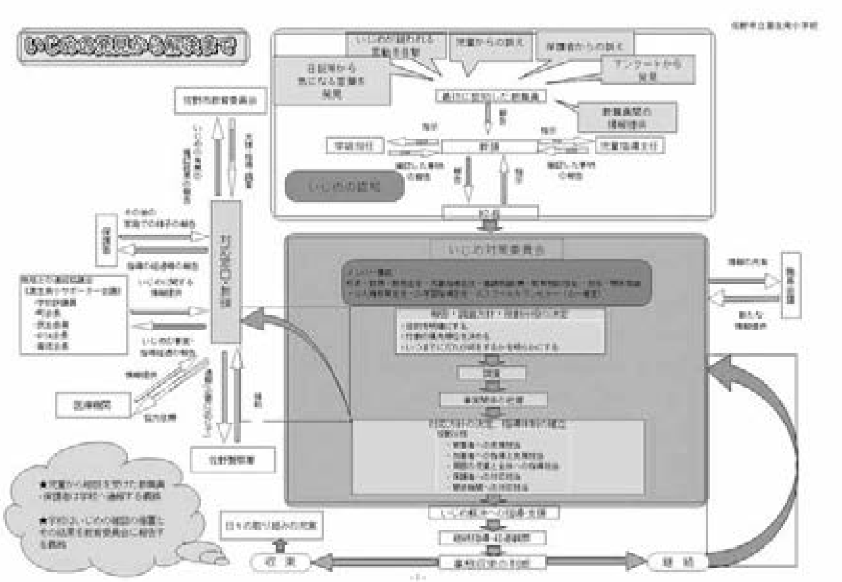
○児童数66名　学級数８
（うち特別支援クラス２）

平成25年度・平成26年度・平成27年度の３か年の研究
自分の考えをもち表現できる児童の育成を目指して
－ いじめ０を目指して －

⑵　いじめ０の１年間を通した取組

４月　いじめ防止計画を作成し、本校のいじめ防止の取組について全教職員で共通理解をする。

４月　保護者会で「いじめ発見から解決まで」のマニュアルを配付・説明し、学校の対応について保護者に理解していただく。



▲いじめ発見から解決まで

５月　代表委員会で、いじめ防止について話し合う。その後各クラスでいじめをなくすためにどのような取組をしていくかを話し合い、実践を呼びかけていく。

６月～12月
　いじめ０の研究授業を行う。事前に全教員で指導案検討会をし、研究授業を見た日に授業研究会を行う。その反省を次の授業に生かす。その内の一回の研究授業を学校評議員さんに参観していただき、学校の取組について理解・協力していただく。

６月　いじめ防止のためどんなことができるかを話し合い、いじめ０スローガンを作る。いじめ０スローガン発表会をして、いじめをなくすためにクラスでやっていくことを発表する。それらをもとに、いじめ０のリーフレットを作り、各家庭へ配付し、

掲示するように呼びかけるとともに、学校と同一歩調で取り組むよう協力を呼びかける。また、毎月の学校生活アンケートで、自分のクラスで決めたスローガンが守られているか調べ、守られていないときは、学級会等で話し合う。

いじめ防止リーフレット

平成２６年度

葛生南小学校「いじめ０（ゼロ）スローガン！」

佐野市立葛生南小学校では、いじめ０への取り組みを始めて４年目となりました。今年は更に、いじめ０の道徳の授業を６月と１１月に自作教材を作って行うとともに、いじめ０の取り組みを学年便り等で紹介していきたいと思います。また、各学級で決めた「いじめ０スローガン」は児童集会で発表され、各学年の教室に掲示されました。ご家庭におかれましても、この「いじめ０スローガン」を目の届くところに貼っていただき、家庭と学校とで協力していじめを予防していきましょう。

１年生	いじめ０	げんきいっぱい	やさしいクラス
２年生	いじめ０	みんな友だち	いいクラス
３年生	なかよくしよう	いじめをなくせば	しあわせオーラ
４年生	いじめ０	みんなでつくろう	笑顔の輪
５年生	５年生	仲良くて	やさしい心のクラスです
６年生	絶対に	いじめなんか	するなよな

葛生南小では、いじめをこのように考えています。
いじめを起こさない
いじめは絶対に許さない
いじめはいじめる側が悪い

花いっぱい
歌いっぱい
笑顔（心の栄養）いっぱい
南の子

☆もしもいじめかなと思ったら・・
勇気を出して、
すぐ家の人に話しましょう。
すぐ先生に言いましょう。

言葉で伝えるのがつらい場合、
手紙を書く、電話をするなどしましょう。
葛生南小学校電話番号　８５－２１０１
教育センター電話番号　８６－３４８６

▲いじめ０スローガンのリーフレット

７月・12月

人権週間中、掲示板にいじめ０コーナーを作り、企画委員会で作成したいじめ０を呼びかけるポスターを掲示する。

７月　夏休みに向け、葛生中学校区児童生徒連絡協議会で、地域の方に児童の様子を話してもらうとともに、いじめが起きていないかどうかの見守りをお願いしている。

８月　生活体験の幅を広げ、社会性を培い、コミュニケーション能力を育成するために、６年生が地域のボランティアさんのところで、職業体験を行う。（南小kidsチャレンジ）

▲南小kidsチャレンジ

９月・１月

葛生南小サポーター会議（町会長、民生委員、主任児童委員、育成会長、ＰＴＡ会長、評議員、学校職員）でいじめ問題について話し合う。

毎月　学校生活アンケートを行い、小さなことでも書いてきた児童にはじっくり話を聞き、個別指導をする。その後、児童指導報告会を行い、アンケートから対応したことを報告し合う。それ以外に気になる児童の言動についての対応策等全教職員の共通理解を図る。

葛生中学校区の小中学生で作成した幟り旗を校内に飾り、いじめ防止を呼びかける。

適宜　葛生中学校区の生徒指導主事・児童指導主任が、いじめ・不登校の現状把握と指導状況を確認し、小中で同一歩調での指導ができるように話し合う。

葛生地区の小中学生が授業交流・交流活動などを行うことによって、縦の結びつきを強くしている。（中１ギャップの解消等）

学校新聞にいじめ０の取組の記事を載せ啓発する。

⑶　25年度のいじめ０の授業

①　25年度の授業を行うことになった経緯

24年度のいじめの授業は、道徳の副読本を使っての授業であった。その時の課題の一つとして、授業後の反省会で話し合われたことが次の授業に生かされないということが挙がった。それは、資料も学年も違うので、生かすことが難しいということであった。例えば、24年度は主発問と補助発問についても研究したが、単学級なので、反省会で「このような発問にした方が良かった。」という意見が挙がっても、試してみる場がないため、それで終わってしまっていた。反省会で出た課題を修正した授業を別のクラスでやってみたいという意見が挙がった。

もう一つの課題としては、いじめ問題については、いじめる人、いじめられる人、傍観者、それぞれの立場から考えさせていかなければならないのに、その頃の副読本（いじめを扱った資料）の中に、３者が出てくるいじめの資料が少なかったということが挙げられる。

以上のことから、25年度のいじめ０の授業は、１～６年生までが同じ資料でできるように、自作資料を作ろうということになった。

全教員で手分けをして、図書館などからいじめを扱った紙芝居や本を探してきて１～６年までが同じ資料で授業ができること、いじめる人、いじめられる人、傍観者の三者が出てくることという２点がクリアできるように資料作りをした。

最終的に以下に示す「じゅんちゃんのハッピーバースデイ」という紙芝居に決定した。しかし、内容が長いため、内容を精選し、１～６年生、どの学年でも使えるように工夫した。特に、主発問や補助発問を工夫することによって、心の葛藤場面が作れるような資料を作り上げた。

25年度の指導案検討会では、資料は同じでも、発達段階に合わせた内容項目にするよう検討を重ねた。

②　授業の内容

１年生から６年生までの教室で同じ教材で授業を行う。

〈図書名（紙芝居)〉　　じゅんちゃんのハッピーバースデイ

〈著作／編集／発行所〉　㈶地域改善啓発センター

〈内　容〉

この紙芝居では、方言（関西弁）の問題を取り上げている。表面的な違い（方言）にとらわれずに相手の人格を互いに認め合い、身近にいる友達と仲良く活動し助け合う事の大切さを学び、豊かな人権感覚を育むことをねらいとしている。

大阪から転校してきたじゅんちゃんは、方言がおかしいからとからかわれる。周りで見ていた子もはやしたてる。最初は見ていただけの男の子がみんなに「やめろよ。」と言う。

※はじめの部分の４枚の紙芝居を使って授業を行う。

実施した学年の順	実　　施　　日
4　　年	4　月　23　日
6　　年	5　月　15　日
1　　年	5　月　21　日
3　　年	5　月　24　日
2　　年	6　月　4　日
5　　年	6　月　18　日

※25年度は前期に道徳のいじめ０研究授業、後期に学活のいじめ０研究授業を行ったため、道徳は４月から７月の間に行われた。

③　各学年ごとの授業の流れと特色

4年○善悪の判断・勇気　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　4月23日

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　本時のテーマについて知る。	3	○どんなことがいじめになるのでしょう。 ◎本時のテーマを知らせる。 善悪の判断・勇気
展　開	2　紙芝居「転校してきたじゅんちゃん」のペープサートを最後まで聞いて話し合おう。	30	 ○初発の感想を発表しよう。 ○転校して来た時、じゅんちゃんはどんな気持ちになったでしょう。 ○周りの子はどんな気持ちではやしたてたのでしょう。 「男の子の顔は真っ赤でした。」その時の男の子の気持ちを考えよう。 ◎男の子の気持ちを「心の折れ線グラフ」に表す。 ・板書に心の折れ線グラフを書き表し、じゅんちゃんと男の子の心の変化を分かりやすくした。 ・心の折れ線グラフを書くことによって、自分が男の子だったらどうするかを、捉えやすくした。
終　末	3　いじめについてまとめる。	12	○自分が男の子だったら、どうしていたかワークシートに書きましょう。 ○いじめというのは、どういうことなのでしょう。 ○いじめをなくすためには、どうしたら良いでしょうか。

（反省）

・心の折れ線グラフに表すことによって、じゅんちゃんと男の子の心の変化が捉えやすくなった。

・いじめる子の気持ちも考えさせると良かった。

・傍観者の立場の男の子が「やめろよ。」と言ったことをしっかりと押さえることによって、いじめは周りで見ている人が止められるんだということに気付かせることができた。

・葛藤場面をどこにもっていくかによって流れが変わるので、どこにもっていくのかを子供の実態によって良く考えることが大切である。

・葛藤場面で話し合いながら、自分の気持ちの変化も追えると更に良い。

6年○公正公平・正義　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　5月15日

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　資料の内容を把握し、本時のテーマを知る。	10	○初発の感想を書きましょう。 ◎資料の内容と登場人物を押さえる。 ◎じゅんちゃんの気持ちを押さえる。 ◎本時のテーマを知らせる。 公正公平・正義
展　開	2　男の子の心情を考える。	25	○男の子の心情について考えましょう。 ①紙芝居2枚目の場面 ②紙芝居3枚目の場面 ③紙芝居4枚目の場面 男の子は、最初なぜ「やめなよ」と言えなかったのでしょうか。 ・いじめは止めた方がいいけれど、止めるには勇気がいるという心の葛藤をさせた。 ・どうすればいじめを止めることができるのかを考えさせた。
終　末	3　いじめについてまとめる。	10	○どうすればいじめを止めることができるのかを考えましょう。 ◎かわいそうと思っているだけでなく、いじめを止めるために行動を起こすことが大切であることに気付かせる。

（反省）

- 男の子だけの気持ちを追っていったのは良かった。
- 効果的な終末を考えると良い。
- 次の低学年での授業では、役割演技をさせると内容が理解しやすくなり、考えもまとまりやすくなる。（事前に見るポイントや、だれの気持ちを考えていくかを知らせておくと良い。）
- 終末のところで、いじめる人、いじめられる人、傍観者、それぞれの立場の人がどうするといじめを止められるのかを考えさせていて良かった。
- 「いじめを止めたいけど、自分もいじめられてしまうかもしれない。」という気持ちと「いじめはだめ、だめなものはだめ。」という気持ちの葛藤ができていたので、自分の気持ちも整理されて、内省できていた。

１年〇友情　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　５月21日

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	１　資料の内容を把握し、本時のテーマを知る。	５	◎資料の内容と登場人物を押さえる。 ◎本時のテーマを知らせる。 友情
展　開	２　じゅんちゃんの心情を考える。	30	○転校して来るときのじゅんちゃんはどんな気持ちだったでしょう。 ○みんなにクスクス笑われているときや、からかわれているときのじゅんちゃんはどんな気持ちだったでしょう。

「やめなよ」と言った時の男の子とじゅんちゃんの気持ちはどうだったでしょう。

・役割演技を取り入れることで、登場人物になりきって気持ちを表現できるようにした。

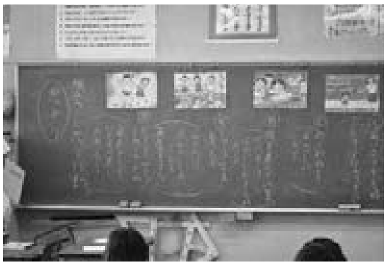
・仲良くできると互いに気持ちが良いことに気付かせた。

	３　話の続きを考える。	５	○この後、じゅんちゃんたちはどうなったでしょう。
終　末	４　教師の説話を聞く。	５	◎先生が子供だったときの話をする。 ◎友達がいることの良さや、相手の気持ちを考えた言動をすることの大切さに気付かせる。

（反省）

・役割演技をすることで、じゅんちゃんの気持ちが捉えやすくなった。
・じゅんちゃんの気持ちをしっかりと考えさせた上で「やめなよ。」と言った男の子の気持ちを考えさせたので、男の子の気持ちを上手に表現できている児童が多かった。
・終末で教師の子供の頃の体験談を話していたが、インパクトがあって良かった。
・笑われたり、からかわれたりしているじゅんちゃんの気持ちをしっかりと押さえることによって、いじめる人が悪いんだということが押さえられていた。
・子供たちの考えが行き詰まった時、紙芝居の表情を比べたり、キーワードを押さえたりしていて良かった。

3年○思いやり・親切　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　５月24日

<table>
<tr><th>段　階</th><th>学　習　活　動</th><th>時間
（分）</th><th>○主な発問　□中心発問
◎指導上の工夫</th></tr>
<tr><td>導　入</td><td>1　本時の主題に関わる話をする。</td><td>3</td><td>◎アンケートをとって、クラスの実態に応じた話をする。
◎本時のテーマを知らせる。
思いやり・親切</td></tr>
<tr><td>展　開</td><td>2　紙芝居「転校してきたじゅんちゃん」を最後まで聞いて話し合おう。</td><td>30</td><td>○初発の感想を発表しよう。
○転校してくる時、じゅんちゃんはどんな気持ちで学校に来たでしょうか。
○周りから、からかわれた時のじゅんちゃんはどんな気持ちだったでしょうか。
○周りの人はどんな気持ちでからかったのでしょうか。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">男の子は、最初なぜ「やめなよ」と言えなかったのでしょうか。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">男の子は、どうして何日かたって「やめなよ」と言うことができたのでしょうか。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">
・考えつかない子には個別に対応した。

・順を追って考えさせた。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>◎本時のテーマを押さえる。</td></tr>
<tr><td>終　末</td><td>3　本時の話についてまとめる。</td><td>12</td><td>○この後のお話の続きはないのですが、男の子が「やめなよ」と言った後、お話はどうなっていくのか、自分で考えて書きましょう。
○いじめをなくすために、どんなことが必要でしょうか。</td></tr>
</table>

（反省）

- いじめる人、いじめられる人、傍観者の気持ちを考えさせるため、じゅんちゃんの気持ちや周りの子の気持ち、男の子の気持ちを考えさせていたが、一人の子の気持ちを追っていった方が良かった。
- 中心発問を１つにしたほうが良い。
- 終末で話の続きを考えさせたが、明るい展望の話を考えていて良かった。
- 子供が「男の子の顔が真っ赤になった。」と発言したとき、「どうしてそう思うの。」とした方が良かった。

2年○友情　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　6月4日

段　階	学　習　活　動	時間 （分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　資料の内容を把握し、本時のテーマを知る。	10	◎「友だち」から連想する言葉をワークシートに書かせる。 ◎資料の内容と登場人物を押さえる。 ○感想を書きましょう。 ◎本時のテーマを知らせる。 友情
展　開	2　じゅんちゃんのあいさつをもう一度聞き、自由に感想を話し合う。	10	◎じゅんちゃんのあいさつは、聞き慣れなかった言葉であることを確認し、どう思うか話し合わせる。 ○２の場面では、じゅんちゃんはどんな気持ちだったでしょう。
	3　じゅんちゃんの気持ちを考える。	15	◎じゅんちゃんが話すと「笑う」ということについて、じゅんちゃんの立場になって考えさせ、自分とは違う言葉を話す相手に対して、どうしたら良かったのかを考えさせる。

男の子が「やめなよ」と言った時のじゅんちゃんの気持ちを考えよう。

			◎周りで見ていた子は、じゅんちゃんに対してどうすれば良かったのかを考え、役割演技をさせる。

・女の子の気持ちを理解するために役割演技を取り入れ、「友情」の価値に迫った。

・相手の立場に立って考えることの大切さに気付かせた。

終　末	4　自分自身を振り返る。	10	◎今日の授業で考えたことや思ったことをまとめさせる。 ◎わたしたちの道徳の「友達」の詩を読み、どんな友達とも仲良くしようという前向きな気持ちをもたせる。

（反省）
・導入で友達から連想する言葉を考えさせることによって、ねらいとする価値の方向付けを行い、問題意識をもつことができた。一人ひとりが連想する言葉を短冊に書いてはると良かった。
・じゅんちゃんの気持ちをしっかりと考えさせてから周りで見ていた子がどうすれば良かったのかを考えさせ、役割演技をさせたのが良かった。
・机間指導をして、ワークシートに書いた子供の意見を見て、指名する順番を考えると、すっきりまとまることが多い。それは、教師側がこんなふうにまとめていきたいという思いをしっかりともっていないとできない。

5年○公正公平・正義　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　6月18日

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　資料の内容を把握し、本時のテーマを知る。	10	○初発の感想を書きましょう。 ◎資料の内容と登場人物を押さえる。 ◎じゅんちゃんの気持ちを押さえる。 ◎本時のテーマを知らせる。 公正公平・正義
展　開	2　男の子の心情を考える。	25	○男の子の心情を考えましょう。 ①紙芝居2枚目の場面 ②紙芝居3枚目の場面 ③紙芝居4枚目の場面

男の子は、なぜ「やめなよ」と言えたのでしょうか。

・心の円グラフを使うことにより、男の子の心の葛藤を捉えやすくした。

・「正義」の価値に迫れるような発問の工夫や、児童の考えを促すような板書の工夫をした。

終　末	3　いじめについてまとめる。	10	◎どうすればいじめを止めることができるのかを考えさせる。 ◎いじめは誰かが止めようとしなければいつまでも続いてしまうことに気付かせる。 ◎いじめを見つけたときに、いじめを止めてやろうという意欲を高める。

（反省）

・電子黒板を使って中心となる価値やキーワード、場面絵を浮き立たせることによって、自分の考えを捉えやすくなり、価値の自覚が図れた。

・心の円グラフを使うことによって、児童の考えにも深まりが出た。また、児童の意見を切り返すことで価値への深まりも見られた。

・子供の考えをホワイトボードや付箋紙に書かせて、みんなで見比べるなど、子供の感想を共有できると良かった。

⑷　25年度の研究成果

①　同じ資料でも全学年で道徳の授業ができるということが分かった。登場人物のだれの心情を追っていくかで内容項目が変わり、中心発問も変わっていくことが分かった。

②　同じ資料を使い、教員全員で指導案の検討、練り合い、そして、授業研究をしたので、共同の研究であるという認識が深まり、研修への意欲が高まった。

③　中心発問を何にするかによって、子供の反応も変わってくることが分かった。効果的な中心発問についても研究を進めることができ、今後の授業に生かすことができた。

④　考えさせる時間を取りながら、子供を納得させる指導を推進することができた。指導に当たって、関連する道徳的価値を十分に認識させるとともに、一人一人の子供の中にある「より良く生きる」という思いに気付かせるための授業を行うことができた。

⑤　道徳の授業に、いじめ０の授業を取り入れることにより、友達の違いも認め合える仲間作りをすることができた。

⑥　道徳の授業を通して、子供たちの心を耕し、心をつなげ、仲の良い学校をつくることができた。

⑦　授業公開や授業改善の取組を通して、「わかる」「できる」「楽しめる」授業づくりを進めていくことができた。

⑸　25年度の課題

①　子供の心に残る終末、実践への意欲化についても話し合い、いろいろな方法を試みたが、子供の実践への意欲を高めるためには、さらなる研究と他教科との関連なども必要となってくると感じた。

②　道徳的実践力の育成のためには、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導が必要である。したがって、研究授業の時だけではなく、日常生活を含むあらゆる教育的活動の中で、道徳的価値を意識させながら、道徳的実践力が身に付くように繰り返し指導しなければならず、その点においてさらなる研究が必要である。

③　全学年同じ資料で行うことは、発問や板書などみんなで考えながら進めていくことができるという良い点がある一方で、１年生から６年生までが同じ資料であり、１年生にはやや難しいというようなデメリットも多い。そこで、来年度は、みんなで作ったいじめ０の話を紙芝居にし、クラスの実態に応じて、話を変えていくという手法で、研究授業を行うこととする。

⑹　26年度のいじめ０の授業

①　26年度の授業を行うことになった経緯

25年度、いじめを扱った紙芝居や本を集めるのに苦労したためと、日頃から子供たちに、いじめを扱った本に触れてほしいという思いから、いじめを扱った本を30冊購入した。

26年度は、その中から本を選んで25年度と同じように同じ資料でいじめ０研究授業を行おうということになった。しかし、いじめる人、いじめられる人、傍観者の三者が出てきて、１年～６年まで、全学年に対応できる内容にするというと、その30冊の本の中にはなかった。そこで、30冊の本の中から、イラストを選び話の内容は全教員で自作しようということになった。

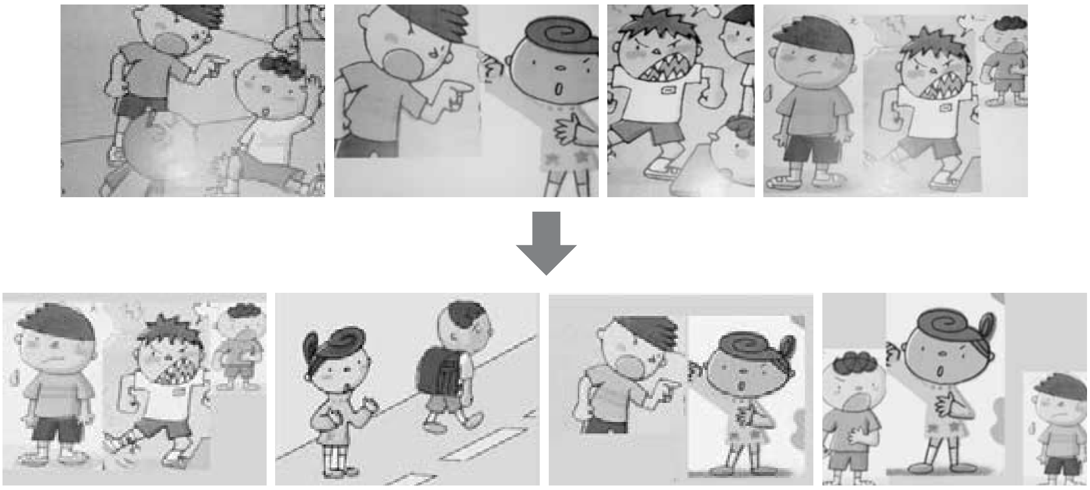
自作資料を作っていく中で、資料の紙芝居は同じ物を使っても、話の内容は発達段階に応じて少しずつ変えてもいいのではという意見が多かったため、26年度は学年に応じて少しずつ話を変えていくということにした。

※ {　　　　} の中の話が各学年のあらすじとなっている。

②　授業の内容

紙芝居は同じ物を使いみんなで話を作り、クラスの実態に応じて話を少しずつ変えて授業を行う。

〈図書名〉　ひとりでがまんしないよ！　～いじめにまけない～
〈監　修〉　嶋崎　政男
〈発行者〉　岡本　雅晴
〈発行所〉　株式会社あかね書房



※最後に授業を行った４年生は、そこまでの実施学年の反省を踏まえ、紙芝居の絵を一部変更した。

実施した学年の順	実　　施　　日
２　　年	６　月　４　日
５　　年	６　月　20　日
３　　年	７　月　９　日
１　　年	12　月　15　日
６　　年	12　月　20　日
４　　年	12　月　24　日

③　各学年ごとの授業の流れと特色

２年○善悪の判断・勇気　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　６月４日

　口答えをするなおきをしゅんたろうが「仲間はずれにしよう。」と言いだし、なおきは仲間はずれにされてしまい、みんなから無視される。そのうちにたつひこが、いばっているしゅんたろうが気に入らなくなり、みんなで無視しようと言い出す。その様子を見た緑が「いい加減にしなよ。仲間はずれはいじめだよ。」と言う。そんな緑を見て、ひとりぼっちでいるしゅんたろうのところになおきが行って、「一緒に遊ぼう。」と声をかけた。

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	１　登場人物について確認する。	３	◎資料の内容が良く把握できるようにする。 ◎本時のテーマを知らせる。 善悪の判断・勇気
展　開	２　紙芝居「なおきとしゅんたろう」を聞いてなおきの心情を話し合う。	30	○なおきはいじめられたときどんな気持ちになったでしょう。 ○緑がかばってくれたとき、なおきはどんな気持ちになったでしょう。 しゅんたろうが席に戻っていくのを見たとき、なおきはどういう気持ちになったでしょう。
	 ・主発問で「しゅんたろうが悪いから仕方がない。」と「でも、しゅんたろうが、かわいそう。」という２つの気持ちを出して葛藤させた。		 ・葛藤場面で、本心が引き出せるような発問を考えた。
終　末	３　本時の話についてまとめる。	12	○どうすればいじめを止めることができるのでしょう。 ◎友達のけんかの仲裁に入ったときの気持ちを発表させて、勇気をもって正しいことをすることの大切さに気付かせる。

（反省）

・いじめられている子が最初なおきだったのが、後半に変わった。いじめられる人が２人いるのは分かりづらかったので、次の授業では、いじめられるのは、１人にすると良い。

・事前にアンケートをとっておいて、導入に入れると良かった。

・低学年で勇気というねらいでもっていくのは無理があったのではないか。

・葛藤場面でもっと時間をとった方が良かった。

5年○公正公平・正義　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　６月20日

口答えをするなおきをしゅんたろうが「仲間はずれにしよう。」と言いだし、なおきは仲間はずれにされてしまいみんなから無視される。そんな、なおきを心配した緑がしゅんたろうに「なおきを仲間はずれにするのはやめなよ。なおきがかわいそうだよ。」と言った。そんな緑を見た周りの友達も「仲間はずれはいじめだよ。やめなよ。」と言い始めた。みんながなおきの味方をしたので、しゅんたろうは、すごすごと席に戻っていった。さみしそうにしているしゅんたろうのところへ行って、なおきは話しかけた。

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　いじめの経験について話し合う。	3	◎いじめがなくならないのはなぜか考えさせる。
展　開	2　紙芝居「なおきとしゅんたろう」を最後まで聞いて話し合う。	27	○悪口を言われたなおきは、どんなことを考えたでしょう。 ○緑の言葉を聞いたなおきは、どんなことを考えたでしょう。 ○席に戻っていくしゅんたろうをなおきはどんな気持ちで見ていたでしょう。
	なおきはどんな気持ちからしゅんたろうに話しかけたでしょう。		
	 ・「心の円グラフ」を使うことによって、自分の心の内を表現することができた。また、葛藤場面も作りやすかった。		 ・私たちの道徳のメッセージを読むことで、誰でもいじめる側になる可能性があることに気付かせた。
	3　自分を振り返る。	10	○いじめをなくすために必要なことは何ですか。 ◎本時のテーマを知る。 公正公平・正義
終　末	4　本時の話についてまとめる。	5	○私たちの道徳のメッセージを読みましょう。

（反省）

・円グラフを使うと、発言できない子が発言するきっかけとなって有効である。

・振り返りは自分の経験からさせると良い。

3年○思いやり・親切　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　7月9日

　自分勝手なことをするなおきをしゅんたろうは気に入らなくなり、みんなに「仲間はずれにしよう。」と言う。次の日からみんながなおきを無視し始めた。そんなある日、緑がしゅんたろうに「なおきを仲間はずれにするのはやめなよ。」と言う。その日の学校帰りにしゅんたろうがなおきに声をかけた。

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　登場人物を確認する。	3	◎登場人物を紹介する。 ◎本時のテーマを知らせる。 思いやり・親切
展　開	2「なおきとしゅんたろう」を読んで話し合う。	27	○みんなに無視されたなおきはどんなことを考えたでしょう。 ○緑がしゅんたろうに話をしているのを聞いたとき、なおきはどんなことを考えたでしょう。
	学校帰りにしゅんたろうはなおきに、何を言おうとしたのでしょう。		
	 ・友達に親切をした経験、された経験を発表させることによって、相手の気持ちを大切にしようとする意欲を高めた。		 ・自分自身を見つめることを通して、道徳的価値の自覚が深まった。
	3　自分を振り返る。	10	○本時の授業について、自分の考えを書きましょう。 ◎今まで相手のことを思いやり進んで親切にした経験、または親切にされた経験を発表させる。
終　末	4　教師の説話を聞く。	5	◎3年生の思いやりを紹介することで、道徳的価値の自覚を深める。

（反省）

・緑やなおきの気持ちをしっかりと押さえていたので、学校帰りにしゅんたろうがなおきに何を言おうとしたのかが、良く考えられていた。

・地域の学校評議員さんに参観してもらい、感想なども聞かせてもらった。地域の方に本校のいじめ0への取組をアピールし、協力を求めることができた。

１年○友情　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　12月15日

なおきが自分勝手なことをするので、しゅんたろうがなおきを仲間はずれにしようとみんなに言い出す。なおきが「おはよう。」と言ってもだれも返事もしてくれない。「遊ぼう。」と言っても聞こえないふりをする。

ある日、緑がしゅんたろうに「なおきがかわいそうだよ。もう、いじめはやめなよ。」と言った。しゅんたろうは「いじめなんてする気はなかったんだよ。」と言った。なおきは、陰で黙ってそれを聞いていた。

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　資料の内容を把握する。	13	◎紙芝居を読んで、登場人物を押さえる。 ◎本時のテーマを知らせる。 友情
展　開	2　なおきの心情を考えさせる。	22	○仲間はずれにされたなおきは、どんなことを考えたでしょう。 ○しゅんたろうが「いじめなんてする気はなかったんだよ。」と言ったとき、なおきはどう思ったでしょう。 緑が「もう、いじめはやめなよ。」と言ったとき、なおきはどう思っただろう。 ・ロールプレイをすることでなおきの気持ちを考えやすくした。 ・いじめということが、１年生には少し難しかったが、言葉の意味を説明しながら進めたので、理解できていた。
終　末	3　自分を振り返る。	10	○本時の授業を振り返って、これから自分はどうしていったら良いのかを書きましょう。

（反省）

・資料に入る前に登場人物をしっかりと押さえたので、内容を良く理解させることができた。

・いじめや仲間はずれなどの言葉の意味を説明しながら進めたので、難しい内容でも良く理解して考えていた。

6年○公正公平・正義　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　12月20日

　なおきが自分勝手なことをするので、しゅんたろうが「仲間はずれにしよう。」と言いだし、なおきは仲間はずれにされてしまい、みんなから無視される。そんな、なおきを心配した緑がしゅんたろうに「なおきを仲間はずれにするのはやめなよ。なおきがかわいそうだよ。」と言った。そんな緑を見た周りの友達もしゅんたろうに「仲間はずれはいじめだよ。やめなよ。」と言い始めた。それを聞いたしゅんたろうは、すごすごと席に戻っていった。

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　資料の内容を把握する。	13	◎紙芝居を読んで、登場人物を押さえる。 ◎本時のテーマを知る。 公正公平・正義
展　開	2　なおきの心情を考えさせる。	22	○悪口を言われたなおきは、どんなことを考えたでしょう。 ○緑の言葉を聞いたなおきは、どんなことを考えたでしょう。

しゅんたろうが席に戻っていったとき、なおきはどういう気持ちになっただろう。

・主発問で「しゅんたろうが悪いから仕方がない。」と「でも、しゅんたろうが、かわいそう。」という2つの気持ちを出して葛藤させた。

・子供の意見に対して、「なぜ。」「どうして。」という切り返しをすることによって本心を引き出すようにした。

段　階	学　習　活　動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
終　末	3　いじめについてまとめる。	10	◎どうすればいじめを止めることができるのか考えさせる。 ◎友達のけんかの仲裁に入ったときの気持ちを発表させて、勇気をもって正しいことをすることの大切さに気付かせる。

（反省）

・自分の考えを発表するとき、理由も言えると良い。

・もっと意見を深めるために、子供の意見に対して「なぜ」「どうして」とさらに切り返し、葛藤させると良い。

・じっくり考えさせたいところに重きを置き、めりはりが付けらるような発問の工夫が必要である。

4年○勇気　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実施日　12月24日

しゅんたろうは、自分に口答えをするなおきが好きではなかった。そこでしゅんたろうがみんなになおきの悪口を言って、仲間はずれにした。緑は友達に「なおきは仲間はずれにされているのかな。」と言うと、「ふざけているだけじゃない。」と言った。しかし、なおきが実際に仲間はずれにされているところを見て、しゅんたろうに向かっていった。

段　階	学　習　活　動	時間 （分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
導　入	1　いじめの経験について話し合う。	3	◎いじめがなくならないのはなぜか考えさせる。
展　開	2　紙芝居「なおきとしゅんたろう」を最後まで聞いて話し合う。	30	○仲間はずれにされているなおきを見て、緑はどんな気持ちになったでしょう。
			なおきが仲間はずれにされているのを見て、緑は、どんな思いでしゅんたろうに向かっていったでしょう。
			○みんながなおきに「おはよう。」と言っているのを見て、緑はどう思ったでしょう。

・今までの授業をふまえて、紙芝居の内容と場面絵を変えた。

・心の変化の大きさを手の幅で表現させた。

段　階	学　習　活　動	時間 （分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
終　末	3　本時の話についてまとめる。	12	○いじめをなくすために必要なことは何ですか。 ◎本時のテーマを押さえる。 勇気 ○私たちの道徳のメッセージを読みましょう。

（反省）

・心の変化を手で表していたが、心の折れ線グラフや心の円グラフを使った方が分かりやすかった。
・ただのけんかなのか、意地悪なのか葛藤させた方が良い。
・価値の内面的自覚は、「いじめをなくすために自分はどんなことができるのか」の方が良かった。
・価値の内面的自覚はしっかり書かせて、自分を振り返らせると良い。

⑺　26年度の研究成果

①　資料の工夫をすることにより、発達段階に応じて自分の問題として考えることができた。

②　発問の工夫により、児童の話合い活動が焦点化され、ねらいとする価値の理解が深まった。

③　板書を工夫することにより、児童の理解が深まり、道徳的実践力につながった。

④　学校評議員さんに参観してもらい感想を伺ったり、いじめ０への取組について、理解してもらったりした。

⑤　反省会を通して、以下の通り、道徳の時間の授業作りについて再確認した。

〇ねらいの検討

・内容項目とその指導の観点の確認

・内容項目の系統性の確認

・内容項目に関わる児童の実態把握

※この時間に指導する道徳的価値について、どのように理解しているか。また、子供に対してどのように考えさせ、学ばせたいか。

※ねらいとする道徳的価値について、子供たちはこれまでどのような学びをしてきたか。その結果、現在の子供たちはどのような状況なのか。

・ねらいの設定

〇資料の選定

〇資料の分析と発問の設定

・中心発問と基本発問の精選

〇導入と終末の検討

〇板書計画の作成

⑻　26年度の課題

①　子供から出てくる意見を予想しながら適切な発問を考える。

②　葛藤場面でもっと子供の心を揺さぶるための補助発問を考えておくと良い。いろいろなパターンを考えておき、展開がねらいとする道徳的価値からそれないようにしておく必要がある。

③　振り返りは自分の経験からさせるようにしたい。

④　今後起こるであろう多様ないじめに対応するためにも、いろいろな種類のいじめを考えていく必要がある。また、自分の日常生活にも活用できるよう、問題解決的な学習や体験的な学習を導入していくことが必要である。

⑼ 27年度のいじめ０の授業

① 27年度の授業を行うことになった経緯

26年度の課題の一つとして、いじめ問題でいろいろな種類のいじめに対応しなければならないこと、日常生活にも活用できるよう、問題解決的な学習や体験的な学習を導入していくことが必要であるということが挙げられた。その課題を解決するためには、発達段階に応じた資料が必要であるということになった。今年度は、多様ないじめ問題を扱い、いじめる人、いじめられる人、傍観者が出てくる資料が使われている副読本を使用することにした。

② 授業の内容

27年度は道徳の副読本（みんなで考える道徳　日本標準）のいじめに関する内容の資料を使った授業にする。

学 年	資　　　　　料	実 施 日
１ 年	いっしょにやろうね 　みんな休み時間に縄跳びをするのを楽しみにしていますが、よし子さんが入るとすぐにひっかかってしまいます。「よし子さんは見てなさいよ。」と言われたよし子さんは一人ぼっちでした。それを見たはるなさんが、「よし子さんもいれてみんなでやろう。」と言いました。	６月５日
２ 年	くつ 「くつがかたっぽ落ちてるぞ。」とくつをけりあいしていると、さち子さんが「やめてよ。ねえ、返してよ。」とくつを追いかけて泣いてしまいました。くつをけってしまったぼくは、悪い点のテストを友達にとられたことを思い出しました。	７月８日
３ 年	「いじめ」なんてしたくない 　ある教室の様子です。気になるところはありますか？（教室内でいろいろないじめが行われているイラストが載っている。）	６月19日
４ 年	あの子 「あのさぁ。あの子と一緒におらんほうがええで。」「私も聞いたことあるよ。」「信じられない。」とうわさが伝わっていく。「でもなぁ。」	７月８日
５ 年	からかっただけなのに 　ある日の掃除の時間、広大君がバケツを頭にかぶっていて、海星君と幸太君がそれを見て笑っていた。そのうちに、広大君にほうきを持たせてかかしのような格好をさせていた。先生に怒られた海星君と幸太君は「ちょっとからかっただけなのに。」と口々に言った。ぼくは、海星君と幸太君は友達のいない広大君と遊んでやっているんだからいじめじゃないと思っている。	10月14日
６ 年	いじめのなかで生きるあなたへ 　子供が心の暴力を受けて自殺してしまった。母親の手記（理由があれば人は人を傷つけても良いのかと訴えている）とその母親が亡くなった娘と全ての子供たちへ贈る「生まれてきてくれてありがとう」という詩の２部構成でできている。	９月16日

③　各学年ごとの授業の流れと特色

1年

資料名	いっしょにやろうね	実施日　6月5日
内容項目	善悪の判断・勇気	
ねらい	友達を思いやり、友達のために良いことは勇気をもって行動する態度を育てる。	

指導過程	学習活動	時間(分)	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1　友達のことを考える。	5	○友達が一人で寂しそうにしているところや泣いているところを見たことがありますか。
価値への追求把握	2「いっしょにやろうね」を読んで話し合う。	30	○みんなはどんな気持ちで縄跳びをしていますか。 ○はるなさんは、よし子さんを見てどんな気持ちになったでしょうか。

はるなさんは、なぜ思い切って言ったのでしょうか。

・葛藤場面（よし子さんがいないと縄跳びがうまくいく。でも、よし子さんは寂しい。）でいろいろな意見を出させた。

・価値の内面的自覚で、「仲間はずれはいじめなんだ」だから「遊びにだれかを入れないということはしてはいけないことなんだ」と気付かせることができた。

指導過程	学習活動	時間(分)	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
			○みんなで縄跳びをしたときのはるなさんはどんな気持ちだったでしょうか。
価値の内面的自覚	3　はるなさんの立場で考える。	5	○自分がはるなさんだったら、よし子さんに何と言いますか。
終末	4　教師の説話を聞く。	5	◎友達を思いやる気持ちをもち、行動した話をする。

（反省）

・葛藤場面でいろいろな意見を出させてから、価値の内面的自覚にもっていったところが良かった。
・内面的自覚のところで、「自分が○○だったら何と言うかな。」というのを自分の言葉で言わせたのは良かった。
・教師の説話が今後の自分に展望をもたせるような内容になっていた。

2年

資 料 名	くつ	実施日　7月8日
内容項目	友情	
ね ら い	友達とはいつも仲良く、明るく生活しようとする気持ちを高める。	

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1　友達について考える。	5	○友達の気持ちが分かったことがありますか。どんなときに分かったのですか。
価値への追求把握	2　「くつ」を読んで話し合う。	26	○ぼくがくつを蹴り返したのはなぜですか。 ○さち子さんが「やめて。」と言っているのに、続けて蹴ったのはなぜですか。 ○泣き出したさち子さんはどんな気持ちですか。 ○テストをみんなに見せられてぼくが泣いたのはなぜですか。

ぼくは何に気が付いて、心の中がゴロゴロしているのですか。

・自分の学校生活を振り返らせることによって、主人公と自分の行動を比べさせた。

・相手の立場に立って考えることのできた主人公の気持ちに共感させることができた。

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の内面的自覚	3　友達について考える。	10	○友達と仲良くするには、どんなことに気をつけたら良いですか。
終　末	4　わたしたちの道徳を読む。	4	○わたしたちの道徳「ともだちとなかよく」を読もう。

（反省）

・同じようなトラブルが実際にあったので、子供に考えさせるのにちょうど良い資料となった。
・価値の内面的自覚のところで、いじめをしないで友達と仲良くするにはどうしたら良いかについて考えることができた。

3年

資料名	「いじめ」なんてしたくない　　　　実施日　6月19日
内容項目	勇気
ねらい	勇気をもっていじめに立ち向かおうとする心情を養う。

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1　自分のクラスについて考える。	3	○わたしたちのクラスは、どういうクラスですか。
価値への追求把握	2　「いじめなんてしたくない」の絵を見て話し合う。	27	○絵を見て、気になる場面を丸で囲みましょう。どうしてそこが気になったのか考えましょう。 ○絵の右下の3人の女の子たちは、いじめが起こっているのを知っているのにどうして何もしないのでしょう。

このクラスを良くするために、どういう人がいると良いのでしょうか。

・いじめる人、いじめられる人、周りで見ている人、それぞれの立場から、いじめを考えさせた。

・「いじめに立ち向かう子」とはどういう子なのかを教師側がしっかりと押さえて指導した。

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の内面的自覚	3　今日の授業を通して、これからどのようにしていきたいかを考える。	10	○あなたがこのクラスのいじめられている人だったら、勇気を出してどんなことを言ったら良いでしょうか。 ○あなたがこのクラスのいじめを見ている人だったら、勇気を出してどんなことを言ったら良いでしょうか。
終末	4　教師の説話を聞く。	5	○今日の授業を通して、これからどのようにしていきたいですか。 ◎本時の授業を通して、やらなければならないことや学んだことは何かを問いかけることで、自分を振り返らせる。 ◎書くことによって自分と向き合う。自分自身を見つめることを通して、いじめに対処する自覚を深める。 ◎傍観者が「いじめはだめだよ。」と勇気を出して言ったことにより、いじめがなくなった話をする。

（反省）

・評議員さんから「いじめについて子供が良く考えていた。自分たちも前向きに協力していきたい。」という感想をいただくことができた。

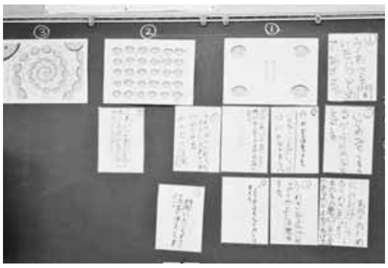
4年

資 料 名	あの子　　　　実施日　7月8日
内容項目	勇気
ね ら い	自分が正しいと判断したことに対して勇気をもって行動する心情を育てる。

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1　噂について考える。	3	○だれかの噂を聞いたり、自分が噂されたりしたことがありますか。
価値への追求把握	2　「あの子」を視聴して話し合う。	25	○どうして噂は広がったのだろうか。 ○噂を広められたあの子の気持ちはどうなっただろうか。 ○あの子はこの後どうなるだろうか。

あなたは、どの絵の中でどんなことができるだろうか。

・正しいこと、どうしなくてはいけないのかということは分かっているが、行動には移せないという児童が多かった。



・葛藤場面を入れることにより、価値への追求が深まり、実践への意欲が高まった。

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の内面的自覚	3　今日の授業を通して自己を振り返る。	12	○この学習を通して自分はこれからどのようにしていきたいですか。 ◎書くことによって自分と向き合う。自分自身を見つめることを通して、いじめに対処する自覚を深める。
終　末	4　教師の説話を聞く。	5	◎話の続きの読み聞かせを行い、温かい気持ちで余韻の残る終末にする。

（反省）

・発表ボードが効果的に使われていた。友達の考えと自分の考えを一目で比べられる利点がある。

・パワーポイントで提示した資料が良かった。いじめている子たちが回転していって、噂がいじめにつながる事への恐怖感が出るように効果的に作られていて、子供たちが引き込まれていった。

5年

資料名	からかっただけなのに	実施日　10月14日
内容項目	思いやり・親切	
ねらい	相手の立場になって考え、だれに対しても思いやりの心をもとうとする心情を養う。	

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1　いじめについて考える。	3	○「いじめ」とはどんなことか考えよう。
価値への追求把握	2　「からかっただけなのに」を読んで話し合う。	35	○「広大君」「海星君」「幸太君」「ぼく」「クラスのみんな」の行動や考えをどう思いますか。 ○友達の考えを聞いて、登場人物について話し合おう。 ◎「友達のいない広大君と遊んでやっている」「みんなも二人のやっていることを見て、楽しんでいる」という文に注目させる。

「いじめなんかじゃない」という考えをどう思うか。

・それぞれの立場で、「いじめなんかじゃない」という言葉について考え、グループで話し合わせた。

・私たちの道徳のメッセージを読むことで、誰でもいじめる側、いじめられる側になる可能性があることに気付かせた。

価値の内面的自覚	3　今日の授業を通して、自分を振り返る。	5	○今日の授業を通して、これからどうしていきたいと思いますか。 ◎本時の授業を通して、自分がやらなければならないことや学んだことは何かを問いかけることで、自己を振り返って考えさせる。
終末	4　わたしたちの道徳を読む。	2	○わたしたちの道徳 「学び合い、高めあえる友情を」を読みましょう。

（反省）

・「広大君は『やめろよ。』と言った方が良かった。」という子が何人かいたが「『やめろよ。』と言えなかったと思う。言えないからいじめなんじゃないか。」と言っている子もいた。そこから、「見ている人が止めないといじめは止まらないのではないか。」という意見にまとまっていったことが良かった。
・いじめが「いじめられる子」「いじめている子」「見ている子」それぞれの立場から考えられていた。自分がどの立場になっても、いじめはいじめる側が悪いと考えられるようにしていきたい。

6年

資料名	いじめの中で生きるあなたへ	実施日　9月16日
内容項目	思いやり・親切	
ねらい	相手の立場になって考え、だれに対しても思いやりの心をもとうとする心情を養う。	

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
価値の方向付け	1　資料を読む。	3	○「いじめの中で生きるあなたへ」を読んで、思ったことを発表しましょう。
価値への追求把握	2 「いじめの中で生きるあなたへ」の前半について話し合う。	25	○人は人を傷つけても良いのでしょうか。 ○自分と違っていて変だと思ったら、相手を傷つけても良いのでしょうか。 ○いじめる理由があればいじめても良いのでしょうか。

いじめられる側にも責任があるのではないか、という話を聞きますが、どう思いますか。

・最初に自分の考えを付箋に書かせることにより、その後の話合いがスムーズにいくようにした。友達と話し合う中で、心の葛藤場面をつくっていった。

・小グループの話合いでは友達の意見を聞いているうちに、いじめに対する見方が変わってきた。（いじめられる方も悪い→どんな理由があってもいじめはいけない）

指導過程	学習活動	時間（分）	○主な発問　□中心発問 ◎指導上の工夫
	3 「いじめの中で生きるあなたへ」の後半について話し合う。	10	○詩を読んでどんなことを感じましたか。 ◎手紙を通して、残された親の思いに共感させることで、友達にどういう思いで接した方が良いのかを考えさせる。
価値の内面的自覚	4　この学習を通して考えたことを話し合う。	5	○この学習を通して考えたことや感じたことは何ですか。 ◎書くことによって自分と向き合う。自分自身を見つめることを通して、いじめに対処する自覚を深める。
終末	5 「いじめ0スローガン」を確認する。	2	◎自分たちで話し合って作ったスローガンを認識させ、気持ちを高める。

⑽　27年度の研究成果

①　副読本を使うことにより、多様ないじめ問題に触れ、身近な問題として捉えることができた。

②　日常生活にも活用できるように指導方法を工夫することが求められているが、特に、多様で効果的な指導方法として、道徳でも「問題解決的な学習方法」や「体験的な学習」を導入していくことが必要であると考えた。そこで本校では、どの指導過程でどのような「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を導入していくのかを指導案検討会で話し合い、授業に導入した。その結果、子供自身が道徳的な問題状況に向き合い、様々な解決策を考え、主体的に判断し、互いに議論し合うような授業を行うことができた。

③　子供たちが「いじめはしない。させない。みのがさない。」を意識して学校生活を送るようになった。特に高学年では、いじめ問題を身近な問題として捉え、いじめる側、いじめられる側、傍観者、それぞれの立場に自分が立った時にどうしたら良いのかを話し合うことにより、子供が主体的に考え、協働して問題を解決しようとする姿が見られた。

⑾　27年度の課題

①　道徳の時間を核とした学校教育全体を見通した道徳教育や、地域と連携した道徳教育についても研究を進める必要がある。

②　問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れたさらなる授業の研究を進める必要がある。

③　いじめ問題は学校だけの問題ではなく、家庭や地域と連携した指導が重要となるため、28年度はいじめ０研究授業の際に保護者の参観を呼びかけて、啓発していくこととする。

④　道徳の教科化に伴い記述による評価を行うことになるが、評価の方法や記述内容についても研究していかなければならない。

2　栃木県塩谷郡高根沢町阿久津中学区の実践

⑴　実践校の紹介

高根沢町立阿久津中学校

高根沢町立阿久津小学校

高根沢町立西小学校

高根沢町立中央小学校

⑵　高根沢町の小中一貫教育

①　小中一貫教育の基本方針

・「施設連携型」による小中一貫教育

・「４・３・２」の教育区分 →「連携・活用期」に重点

教育区分	基礎・定着期（４年）				**連携・活用期（３年）**			充実・発展期（２年）	
学校区分	⇔ 小学校 ⇔						⇔ 中学校 ⇔		
学年区分	１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年
学習指導	学級担任制						教科担任制		
学習指導の特徴	学習習慣を定着させ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。				小中学校の教職員が密接な連携を図って指導に当たる。基礎的基本的な知識・技能を活用し、自ら考え判断し、表現する力などを養う。			これまで学んだ学習内容や学習方法等を充実・発展させ、希望する進路実現の為の学力を身につける。	

② 小中一貫教育のねらいと内容

「自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成」

ア 確かな学力の向上のために（学力部会）

○ 学習指導の充実

○ 英語教育の充実

○ 教科担任制の実施

イ 豊かな心や社会性をはぐくむために（生き方部会）

○ **道徳教育の充実**

○ 望ましい人間関係づくりのための活動の実施

○ 地域との連携による体験活動の実施

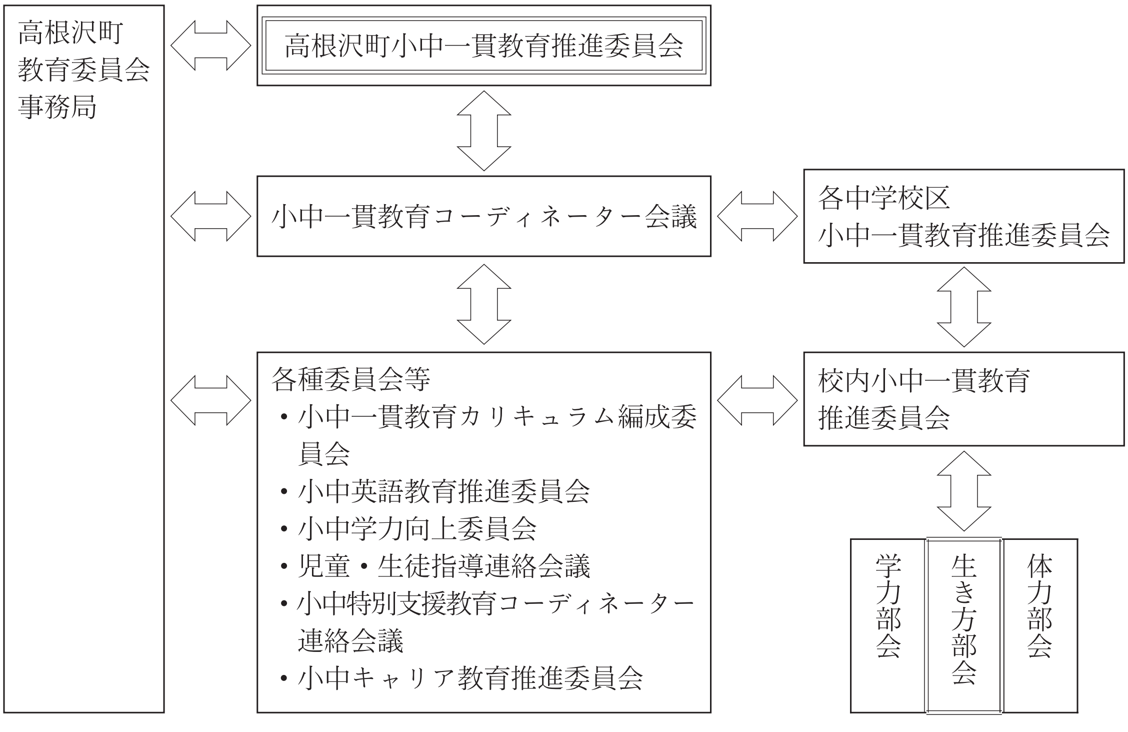
ウ 健やかな体をはぐくむために（体力部会）

○ 教科体育の充実

○ 保健教育の充実

○ 食育の推進

③ 推進組織



⑶　高根沢町生き方部会の活動

イ　豊かな心や社会性をはぐくむために

①　道徳教育の充実

ねらい

小中学校が連携し、児童生徒や学校の実態に応じ重点目標や各学年の指導の重点を明らかにした指導を行い、系統的、発展的に道徳性や道徳的実践力を育成する。

ア　道徳の時間の年間指導計画の見直しと展開計画の作成

「他者の尊重」の重点化を図るとともに「いじめ未然防止」にも焦点をあて、町独自の小５・小６・中１学年の展開計画（授業案）を作成した。町内の各小中学校で同じ資料を使って授業を行うことにより、町全体でやさしさや思いやりの心をはぐくむことを目指している。

学 年	資　料　名	内 容 項 目	出　典
小 5	わたしのいもうと	生命尊重	絵本　偕成社
小 6	きまりはないけれど	公徳心、規則の尊重	「モラルジレンマによる討議の授業（小学校編）」明治図書
中 1	コタンの高橋医師	差別や偏見のない社会の実現	栃木県道徳郷土資料集「ふるさと　とちぎの心」

イ　研修会・授業研究会を実施

時 期	内　容
5 月	全体研修会
8 月	部会（役員選出）
11 月	指導案の検討
12 月	授業研究会

② 展開計画

ア 高根沢町小中一貫教育道徳カリキュラム（５年生） 12月

主題名	いじめについて考える		
資料名	わたしのいもうと	出典	わたしのいもうと（偕成社）
学習指導要領の「内容」	３－(1)生命尊重 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。		
ねらい	自他の生命の尊さに気づき、いじめをしないという心情・態度を育てる。		
あらすじ	新しい学校に通いはじめた小学校4年生の妹は、ふとしたことからいじめられ、学校へ行かなくなり、部屋にとじこもるようになった。彼女を傷つけあざ笑い、ののしった友達は中学生になり高校生になっていく。でも、妹の時間は凍りつき、やがて止まってしまう。冒頭の文章は、妹が亡くなった後、残された手紙。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	学校生活の中で乱暴な言葉遣いやからかいが原因となりトラブルになることもある。今回の学習において、「いじめは人の命を奪うこともある」ということに気づかせ、「いじめは絶対にしない」という心情・態度をはぐくむよう指導したい。		
評　価	①いじめはしてはいけないという気持ちを高められたか。 ②命を大切にしていこうとする気持ちを高めたか。		

学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点◆指導の工夫★評価	資 料
(1) 『［　　　］命』 どんな言葉が入るのか考えよう。 ・大切な命　・たった一つの命 ・かけがえのない命	●それぞれの意味についてはふれない。 （生命がでたら、『［生きるため］の命』と捉えると良い。）	
(2) 「わたしのいもうと」の読み語りを聞いて話し合う。 【「ひと月たち…ひとりぼっちでした」まで読み】 ① 今、妹の心の中はどんなだろう。 ・どうして？ ・わたし、なんにもわるくないのに ・だれか、助けて　・学校に行きたくない 【最後まで読んで】 ② この話を聞いて、自分が一番『［　　　］』と感じるのはどういうところか書いて、グループで話し合ってみよう。 ・かわいそう…妹、家族（母・姉…） ・ひどい…転校して来たことでいじめられる 転校生を仲間はずれにした ・ゆるせない…意味も無くいじめる、いじめをした人が普通に大人になる、いじめたことを忘れている ③ 妹は、「つる」を折りながら、どんなことを考えていたのだろう。 ・わたしは悪くない ・わたしだけがなぜ ・もっと生きたい ・友だちがほしかった ・いろんなことをしたかった ・お母さん、ごめんね ・自由に大空を飛びたい	◆絵本が良く見える位置に場所を移動させる。 ●この絵本は実話をもとに書かれたものであることを伝える。 例「一番悲しいのは、妹が死んでしまったところ」 ●グループで出た意見について全体で話し合う。できれば、許せないの部分の「意味も無くいじめる」「転校生をいじめる」点を取り上げ、そのことをどう思うか、話し合うと良い。 ●なぜ、「つる」なのか考えさせる。 ★妹の「つる」に込めた思いを想像して、ワークシートに書くことができたか。 ●考える時間を十分にとり、いろいろな思いを出させた後、「いじめは全てを奪い、不幸にしてしまう」ことを結びに付け足す。	絵本 わたしのいもうと ワークシート 短冊
(3) 自分の今までの言動を振り返り、「いじめと命」について、思ったことを書いてみよう。		
(4) わたしたちの道徳Ｐ98「限りあるたった一つの命だから」を読む。	●資料を読み、自他の生命の尊さについて気づかせる。	わたしたちの道徳

イ　高根沢町小中一貫教育道徳カリキュラム（６年生）１／２　　12月

主題名	みんなのためのきまり		
資料名	きまりはないけれど（１／２）	出典	モラルジレンマによる討議の授業 小学校編（明治図書）
学習指導要領の「内容」	４－(1)公徳心、規則の尊重 　約束や社会のきまりを守り、公徳心をもつ。		
ねらい	約束や社会のきまりの意義を考え、集団の中で他を尊重するためにきまりを守ろうとする判断力を育てる。		
資料のあらすじ	主人公健一は、あきら、たけしと３人でミニバスケットボールクラブに入っている。３人のクラスのお楽しみ会でバスケットボール大会を行うことになり、好きな人同士でチームを作ることに決まった。そこで３人は同じチームになろうと約束をする。それを聞いたクラスの友達が３人が同じチームになったら絶対に勝つから分かれるべきだと発言する。あきらやたけしは、好きな人同士でチームを作ることに決めたのだから自由だと反論する。健一は、司会者に指名されどうすれば良いか迷ってしまう。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	事前に特別活動で身の回りのきまりについて考える活動を生かし「きまりは何のためにあるのだろう」ということを児童に考えさせる。本時では「公徳心、規則尊重」を子供自身に問い直させ、その後、体育や学級活動等を通して子供自身がルールを作り出す活動をさせ、「公徳心、規則尊重」について体験を通して考えさせていく。		
評　価	健一がどうすべきか、理由を明確にしてワークシートに記入したか。		

学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点◆指導の工夫★評価	資　料
(1)　学校や学級のきまりを思い出す。 　○皆さんの回りにはどんなきまりがありますか。	●身の回りのきまりについて振り返り、きまりがなぜあるのかを考えるようにする。	児童のアンケート
(2)　資料に描かれている状況や葛藤を理解する。 【学級会が始まる前までを読む】 　①　３人はどんなスポーツクラブに入っていますか。 　②　あきら君とたけし君は、お楽しみ会で何をしたいと言っていますか。それはなぜだと思いますか。 【チーム決めの方法が決まったところまで読む】 　③　チーム決めの方法は、どんな意見が出されましたか。 　④　話合いの結果、どんな決め方に決まりましたか。 【最後まで読む】 　⑤　あきら君が３人で同じチームになると言ったとき、みんなはどう思ったでしょう。 　⑥　くみこさんは、どう言いましたか。 　⑦　それを聞いたあきら君はどう言いましたか。 　⑧　健一君は、司会者に指名されましたが、何を困っているのでしょう。	◆再現構成法の手法を使って、児童の呟きを生かしながら、資料の内容を丁寧に確認する。	登場人物の絵
(3)　道徳的葛藤の場面で主人公はどうすべきかを判断し、その理由づけをする。 　○健一君は、どうすべきか理由をつけて書きましょう。	●「３人一緒になる」か「一緒にならないか」を判断し、理由をワークシートに書くようにする。 ★健一がどうすべきか、理由を明確にしてワークシートに記入したか。 【第２時への教師の準備】 ●判断や理由づけカードの内容を整理し、第２時で用いる書き込みカードを作成する。	ワークシート 第１次判断・理由付けカード

高根沢町小中一貫教育道徳カリキュラム（6年生）2／2

主題名	みんなのためのきまり		
資料名	きまりはないけれど（2／2）	出典	モラルジレンマによる討議の授業 小学校編（明治図書）
学習指導要領の「内容」	4－(1)公徳心、規則の尊重 　約束や社会のきまりを守り、公徳心をもつ。		
ねらい	約束や社会のきまりの意義を考え、集団の中で他を尊重するためにきまりを守ろうとする判断力を育てる。		
評　価	きまりは何のためにあるのかを考え、きまりを守ることで自他の権利を尊重しようとする判断力が高まったか。		

学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点◆指導の工夫★評価	資 料
(1)　道徳的葛藤の再確認をする。 ○健一はどんなことで迷っているのか。 ・3人が一緒になるか別のチームになるか悩んでいる。	●第2時の始めとして、状況把握の共通理解をする中で、葛藤状況を再確認し、道徳的葛藤を明確にする。	前時の板書
(2)　3人が同じチームになるか、分かれるほうが良いのかを健一やクラスのみんなの立場で考える。 ①　もし、別のチームになると言ったらあきらやたけしはどんな気持ちになるだろう。 ・約束を破った。 ・裏切り者。 ②　別々のチームになって優勝できなかったら楽しくなくなるのだろうか。 ・勝ち負けは関係ない。 ・強すぎるチームだから楽しくない。 ③　もし、3人が一緒になったらクラスのみんなはどんな気持ちになるだろう。 ・きまりだから仕方ない。 ・きまりだけど公平じゃない。 ・他の人がかわいそう。 ④　好きな人同士でチームを作るというきまりは、クラスのみんなにとって何が問題なのか。 ・みんなで決めたのだから問題はない。 ・公平でない。 ・みんなが楽しめるきまりではない。	●最終的な判断・理由付けを各自が導き出すために、論点についての討議を深め、自分の考えを確かなものにしていくようにする。 ●健一、あきらやたけし、周りの友達、それぞれの立場から考えられるようにする。 ◆きまり自体に問題があることを浮き彫りにするため、公平、公正という観点からの判断をしている児童を指名する。 ↓ 健一が悩んでいる理由はこの公正でないきまりであることを押さえる。	第1次判断・理由付けカード 登場人物の絵
(3)　なぜきまりがあるのかについてグループで意見を出し合う。 ○きまりはなぜあるのだろう。 (4)　最終的な判断を決定する。 （第2次判断・理由付け） ○健一はどうするべきか。	◆自分の考えを付箋に書いてから、グループでの話合いにすることにより、自分の考えをしっかり話せるようにする。 ●「きまりはみんなが楽しく安心して生活するためにある」とまとめる。 ●主人公はどうすべきか再度判断し自分の最も納得する理由付けを決定する。 ★相手や周りの人々の立場に立って、きまりについて考えることができたか。	付箋紙 グループ用ワークシート 第2次判断・理由付けカード

ウ　高根沢町小中一貫教育道徳カリキュラム（中学１年生）

		学　習　活　動	時間	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点	資料・準備
導入		1　アイヌの人たちについて知る。	3	○アイヌの人たちについて、どんなことを知っているか。 ・アイヌ語や伝統文化がある。 ・差別や偏見で苦しんでいる。	○事前に資料のリード文について触れることで内容を理解しやすくする。	
展開	前段	2　資料を読み、房次の気持ちについて考える。	10	○房次がアイヌの人たちの健康状態を調査してどんなことを感じたのだろう。 ・昔は無菌地帯だったため、伝染病に対する抵抗力がない。 ・病気だけでなく、差別や偏見によって傷ついている。	○アイヌの人たちがおかれている現状を知ることから医療活動を始めていった房次の人となりを確認する。	ワークシート
		3　差別をなくすために大切なことを考える。	17	◎房次はどのような思いで病院の待合室に仕切りを設けなかったのだろう。 ・アイヌの人たちが差別されているのはいけないことだ。 ・誰に対しても公平であるべきだ。 ・仕切りを設けないことで、差別という悪い習慣をなくしていきたい。 ・仕切りを設けないことで、人間の心の中にある仕切りを取り払いたい。	○アイヌの人たちに対する差別は当時慣例であり、房次の行動は例外であったことを押さえる。 ○「差別はいけないこと」で終わってしまいそうな場合には、「なぜ、房次は差別がいけないと思っているのだろう。」という補助発問をして考えを深めていく。	
				○差別のない世の中にするために必要なこと、大切なことは何か。	○差別をなくすためにこの資料から学んだことは何か、多様な意見を引き出したい。	
	後段	4　これまでの自分の生活について振り返る。	15	○身の回りにある差別や偏見とはどんなことだろう。 ・一人の友達にだけ悪口を言ったり無視をしたりすること。 ・遊びの仲間に入れないこと。 ・兄弟で比べられて、自分はだめだと言われてしまうこと。	○前の発問を受けて、自分のことについて振り返る。	
終末		5　『私たちの道徳』のコラムを読む。	5		○『私たちの道徳』（164ページ）を読む。	『私たちの道徳』

⑷　阿久津小学校生き方部会の活動

①　平成27年度　研究主題

「言語活動の充実を図る学習指導の在り方」

～道徳的実践力育成を目指した話合いをするために～

②　活動内容

ステップ１	ステップ２	ステップ３
6.24 生き方グループのテーマの決定 授業者の決定	7.14　15 研究授業① 7.30 研究授業①を元に②③指導案の検討。 中心発問と言語活動の持ち方について検討。	12.9 研究授業②「わたしのいもうと」 12.18 研究授業③（小中一貫教育研究授業） 「きまりはないけれど」 1.27　まとめ 2.3　最終発表

③　研究授業

ア 「５年　わたしのいもうと」

成　果

- 姉の目線から発問を組み立てたことが良かった。
- 児童が資料の世界にのめりこんでおり、全体的に良く考えていた。
- 授業者の「語り」が素敵で、授業の雰囲気ができていた。ワークスペースを活用した読み語りが良かった。
- 自分の意見を持つところでは、静かに心の中で考えるという活動であったが、とても良かった。じっくり考えているようであった。
- 振り返りの発問が明確であったので、内容項目からずれないで児童は考えることができた。
- 終末の教師の説話が、「命の大切さ」を実感できるものであった。

課　題

- 「つる」の意味から中心発問に、あまりつながらなかった。
- 「何でつるなんだろう」の意見に広がりが欲しい。いじめにつなげていく方法が難しい。
- 姉と妹、どちらの立場からでも、発問は難しい。姉目線だと、ぼんやりしてしまう。児童の経験の少なさが出ていたかもしれない。
- 「～だから」「～してほしい」２つの書き方があった。気持ちを考えさせることを強く押すべきだったか。

イ　「６年　きまりはないけれど」（小中一貫教育研究授業）

成　果

・２時間扱いの授業を展開したことにより、「きまりの意義」について、様々な立場から考えさせることができた。
・グループ活動を取り入れたことにより、多様な意見の交流を図ることができた。
・モラルジレンマ資料を用いたことで、より深く「考える」道徳の授業の在り方を考えることができた。

課　題

・中心発問までの、基本発問の流れがスムーズでなかったところがあった。
・中心発問は他にも考えられる。児童が思わず話し合いたくなる発問を考えることが大切であった。
・話合いよりもホワイトボードに意見を書き出す活動になっていた。話合いにつながるように工夫が必要。（ＫＪ法など）

宇都宮大学教育学部　松本　　敏 教授　　指導講評

前半の子供たちは、あまり自分自身の気持ちを話していなかった。「健一はどうすれば良いか？」に戻ったとき、子供たちは身を乗り出してきた。付箋の見せ合い、写し合いでは、子供たちは、建前しか言わないだろう。また、モラルジレンマ教材では、子供たちに「どうすれば良いか」を問うだけでなく、「ジレンマくずし」（両方が満足する方法）を入れると良い。それを考え、話し合うことで、子供たちは自然と話し出すだろう。

「話合い」の必然性が子供のわくわく感を生む。子供が身を乗り出してくるように、いかにするかを考え、具体的な方向性の発問を組み立てるようにすると良いだろう。

⑸　各校の実践から

高根沢町小中一貫カリキュラム　道徳

高根沢町立西小学校

５年「わたしのいもうと」

①　指導資料について

・実話であるという点や本の分量が長すぎず、読み語りで内容を十分理解させることができる点が良かった。児童からも「これからの５年生に伝えてほしい」という声があった。

・いじめの怖さを伝えるのにとても適した絵本だと思う。教師側がどこを押さえるかしっかりもって進めていけると命の大切さにつなげていけると思う。

・資料の与え方にもよると思うが、範読後に児童から「こわい」という声があちこちから聞こえた。インパクトが後半の方が強いからであろう。「いじめ」に焦点をあてる児童と「命」に焦点をあてる児童が混在していた。「いじめ」から「命の尊さ」にもっていけると良いだろう。

・とても良い資料で子供たちが良く考え、良く活動することができた。

・妹の気持ちと同化できる発問ができると良い。

②　指導資料を活用して

・いじめられた人の実体験を聞く機会がなかったので、残酷さやつらさなどを知り、いじめをしないようにしようとする意識が高まったと思う。

・いじめが命を奪うことにつながるということを改めて感じることができたようだ。

・いじめは絶対にしてはいけないという感想をもった児童がほとんどだった。

６年「きまりはないけれど」

①　指導資料について

・モラルジレンマを取り入れ、どちらの考えにも共感しやすく、正に「ジレンマ」に陥るには良い教材であると思う。

・適切な資料であった。

②　指導資料を活用して

・規則について改めて考え直す良い機会となった。

・２日連続であったが、２時間扱いは少々やりにくく、２時間目の発問は視点も変わることもあり、少し焦点がずれ１日目に戻った感があった。

高根沢町立中央小学校

5年「わたしのいもうと」

①　指導資料について

・児童が深く考えることができる資料だったので、資料の選定の大切さを実感した。

・指導計画・指導案が、良く練られていて、児童の話合いが活発になった。

②　指導資料を活用して

・導入の［　　　　］命　というところでは、何を求めていったら良いのか教師の意図が伝わりにくく、支援が難しかった。板書計画のもう一工夫が大切であると感じた。

・どんな答えを求めて次につなげていくのか、不安要素をもちながら流していってしまった。道徳でいつも思うことであるが、発問の工夫が必要である。

6年「きまりはないけれど」

①　指導資料について

・きまり自体が「いい加減なきまり」であったということが児童たちから出たことが成果だと感じた。

・授業の準備物が用意されていたので、それをアレンジして授業に臨むことができたのが良かった。

②　指導資料を活用して

・２時間扱いの授業は初めてで、時を置かず２日連続で行ったが、緊張感を保つことができなかった。

・資料自体が児童にとって難しかったと感じた。きまり自体がいい加減だったので、そこをどうすれば良いのかの話合いになってしまった。

高根沢町立阿久津中学校

１年 「コタンの高橋医師」

① 指導資料について

- 「差別や偏見は良くない」という意見をもつことができた。
- 直接的ないじめの題材ではないが、最終的には「いじめ」の話題が出てきていたので良かった。

② 指導資料を活用して

- 「差別をなくすために大切にしたいこと」の問いに対し、「他者を尊重する」という意見が出て良かった。
- アイヌ民族の差別の実態が、もう少し詳しく分かるようになっていれば、高橋医師の行ったことのすばらしさや差別に立ち向かった姿がより際立ったように感じられた。
- 資料がやや難しく、理解しにくい内容ではあるが、同じ栃木県出身の人の話という点で共感しやすかった。社会科の授業でアイヌについて学習していたことなどが役に立っていた。

Ⅴ 成果と課題

⑴ 成 果

① 「いじめ未然防止」の取組を通して、「いじめはしない。させない。みのがさない。」を意識して、生活することができるようになった。それにより、自他の人権を守るための基礎となる生命の尊厳を大切にしようとする意欲をもたせることができた。

② 子供自身がいじめ問題に向き合い、いじめる側、いじめられる側、傍観者、それぞれの気持ちを考えることができた。また、自分の生き方を振り返らせることによって、他者の痛みや感情を共感的に受け止める力を育むことができた。

③ 「いじめ未然防止」の授業に「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を積極的に導入することによって、いじめを身近な問題として捉えさせ、発達段階を考慮した適切な指導を行うことができた。

⑵ 課 題

① 小中連携の学年だけでなく、他の学年のいじめ未然防止の取組も取り上げ、学年の幅を広げていく必要があろう。

② 家庭や地域へ啓発し、いじめ問題について理解してもらい、協力を呼びかけていく必要があろう。

③ 道徳教育における「評価」について、今後の教育的課題を踏まえた上で、研究を深める必要があろう。